

2021年度秋季セミナー実施報告

福島県社会科教育研究会 研究推進委員

1 日時 令和3年11月7日(日)

2 会場 福島市飯坂学習センター

3 参加者 会員, 一般参加者 24名

4 講演

(1) 講師 国士舘大学 教授 澤井 陽介 先生
(前文部科学省視学官, 元文部科学省教科調査官)

(2) 演題 「社会科の授業づくりのヒント」

(3) 内容

- ① 「令和の日本型学校教育」から考える ～特に「個別最適な学び」について～
 - ・ 個別最適な学びを実現するために、子どもそれぞれの学びの実情をとらえ、個々の興味・関心等をふまえてきめ細かく指導すること(指導の個別化)と、子どもが自分で自分に合った学ぶ道を選び調整すること(学習の個性化)を促していくことが求められている。
 - ・ 個別最適な学びを実現していくためにICTの活用を進める。
 - ・ 個別最適な学びが孤立した学びとならないよう、協働的な学びを充実させることが重要。異なる考え方が組み合わさることで、よりよい学びを生み出す。
 - ・ 他者との関わり合いや、リアルな体験を通じて学ぶことがこれからはますます重要になる。
 - ・ ICTを活用し、他の地域の人や他の学校の子とも学ぶことも必要。
- ② 深い学びの単元を構想する
 - ・ 単元の目標を、三つの資質・能力をふまえてそれらを相互に関連させながら育成を図るというイメージで整理する。
 - ・ 子どもの疑問や気付きを生かした単元を貫く課題、学習課題を設定し、社会的見方・考え方をふまえた学習活動を設定し、単元を計画する。
 - ・ 単元を貫く課題がきちんと設定されていることで、調べたこと、考えたことが子どもの中で学習内容として体系化される。単元を貫く課題がないと、知識の羅列にとどまり、概念形成ができない。
- ③ 主体的・対話的で深い学びを目指す
 - ・ 主体的な学びを評価する視点
教師の問いは届いているか。
子どもは見通しをもっているか。
子どもの思考の流れに沿っているか。
 - ・ 対話的な学びを評価する視点
子ども同士の発言はどうつながっているか。
意見の違いが板書などで整理されているか。
課題や教師の発問に正対しているか。
 - ・ 深い学びを評価する視点
目標の実現に向かっているか。
考える場面は(焦点化され)設定されているか。
学習のまとめは子どもが行っているか。
- ④ 学習評価から授業を考える
 - ・ 目標をもとに評価規準を具体化することで、育むべき資質・能力がはっきりし、適切な学習活動や問いが設定できる。
 - ・ 評価したことを次の指導に生かし、指導したことの評価を記録に残すことで、指導と評価の一体化を図る。
 - ・ 目標に向けて指導して評価に十分な状況になったら評価する。単元の中で評価の場面を決めておく。
 - ・ 評価材料は、明確に問い、明確に書かせて収集するのがよい。
 - ・ 思考に関する評価は、授業中に評価材料を集める(評価する)のが効率がよい。



澤井 陽介 先生

※ 当日の資料「主体的・対話的で深い学びの実現を目指す課題解決的な学習の授業づくり」は、本研究会HPにおいてダウンロードが可能です。詳細はそちらをご覧ください。